

増え続ける宿泊客のタブレット利用 客室にWi-Fiがなければ リピーターと新規顧客獲得は不可能

サンルート国際ホテル山口 様 / 国際ホテル宇部 様

吉永企業グループが山口県で運営するホテル「サンルート国際ホテル山口」「国際ホテル宇部」。これまでも宿泊客向けに有線LANによるインターネット接続環境を提供してきましたが、スマートフォンやタブレットの利用増に伴いWi-Fiの導入が必須と判断。バッファローの「WAPM-APG600H」を導入し、ビジネス客を中心とする宿泊客の利便性と満足度を大幅に向上させました。



写真：左、サンルート国際ホテル山口 支配人の西村克人 氏（以下西村氏）右、国際ホテル宇部 支配人の阿部正和 氏（以下阿部氏）

山口県を訪れたビジネス・観光客を迎え入れる2つのシティホテル

四国・中国・九州地方を中心に、多角的なビジネスを推進する吉永企業グループが山口県内で展開する2つのホテルが、山口の中心部に位置する「サンルート国際ホテル山口」と山口宇部空港かほど近い好立地に位置する「国際ホテル宇部」です。

ビジネス・観光の拠点利用されるサンルート国際ホテル山口は、地上9階建てのホテルタワーは総客室数80室、一方の国際ホテル宇部は観光客に加え、宴会や結婚式の利用者も多く、客室は102室、両ホテルとも多くの利用客を迎え入れています。

必須な設備としてWi-Fi環境を整備

両ホテルは、国内外からの宿泊客をさらに受け入れていくため、インターネット接続環境の整備も

進めてきました。そうした中で、「これからのホテルに不可欠な設備」として、2014年秋、両ホテルにおいて同時に導入されたのがWi-Fiによる高速なネットワークアクセス環境です。そして、そのインフラを実現するために選択されたのが、防長商事より提案されたバッファローのWi-Fi製品でした。

約3日間という短期導入を実現

2014年8月の導入決定を経て、9月の本稼働に向けた導入作業が開始。お客様への影響を最小限に留めるため、両ホテルともに約3日間という短期間で導入工事を終えました。このようなスムーズな導入を行えた背景には、綿密なスケジュール調整、電波状況を確認するサイトサーベイの実施など、徹底した事前準備が奏功したといえます。

さらに今回の設計・構築にあたりホテル側からの強い要望を受けて、既存の宿泊客向け有線LAN

とは別に、新たにWi-Fi用の基幹ネットワークも敷設。万が一のトラブル発生時でもインターネット接続を可能にすること、また、原因が有線LAN側にあるのか、Wi-Fi側にあるのか、問題の切り分けをすぐに行えるようにするためです。

高い通信性能で導入台数を抑制

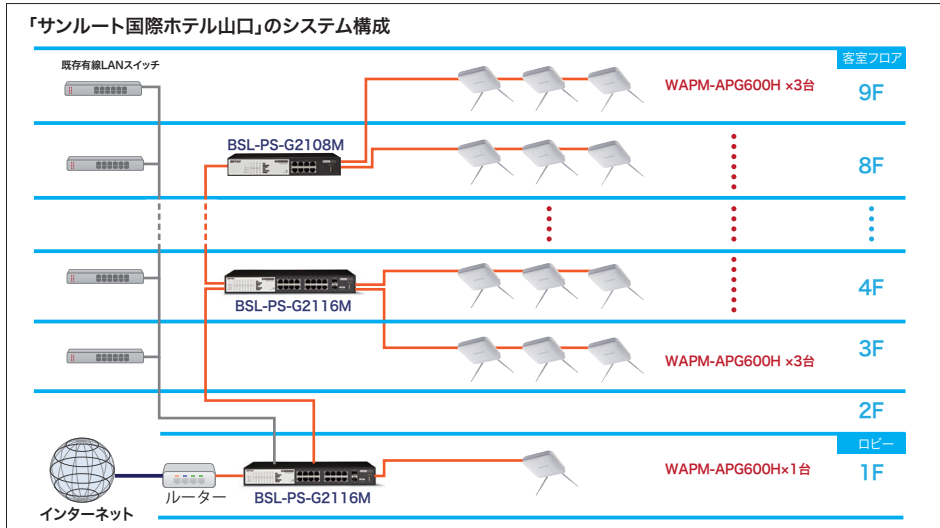
今回のプロジェクトでは、WAPM-APG600Hが両ホテルに22台ずつ導入されました。両ホテルともに1フロアあたり3台のWi-Fiアクセスポイントを設置、1台のアクセスポイントあたり4部屋をカバーするWi-Fiネットワークが構築されています。通信速度は最大300Mbps（規格値）、2.4Gh/5Ghzを合わせて最大33チャンネルが利用でき、必要最小限の台数で十分に快適な通信が実現されました。また、無線端末間の通信を遮断するSTAセパレーターやSSIDセパレーターにより、十分なセキュリティも確保されています。

さらに、各Wi-Fiアクセスポイントを集約するスイッチとして、PoE給電に対応したGigaスイッチ「BSL-PS-G2108M/G2116M」も導入されました。電源周りの工をはじめとした設置費用が大幅に削減されるとともに、高速通信によりWi-Fiの性能を支えるネットワークが実現されています。

安定したWi-Fi接続を提供、リピーターや新規宿泊客の獲得増にも貢献

9月から運用が開始されたWi-Fi環境ですが、「導入以後、Wi-Fi環境は安定稼働を続けており、お客様からのクレームなどは一切寄せられていません」と西村氏、阿部氏は評価します。Wi-Fiの設備があることで新規で獲得できた海外の団体客のケースや常連のリピーターからも喜んでもらえているといえます。

サンルート国際ホテル山口、そして国際ホテル宇部では、今後、ホテル内のWi-Fi環境のさらなる整備を進めていく構えです。



導入製品



エアステーション プロ 11n/a&11n/g/b対応
インテリジェントモデル 無線LANアクセスポイント
WAPM-APG600H

